

## 各国の認知症施策及び認知症の克服に向けた研究開発について

---

平成30年12月

# 各国の認知症施策

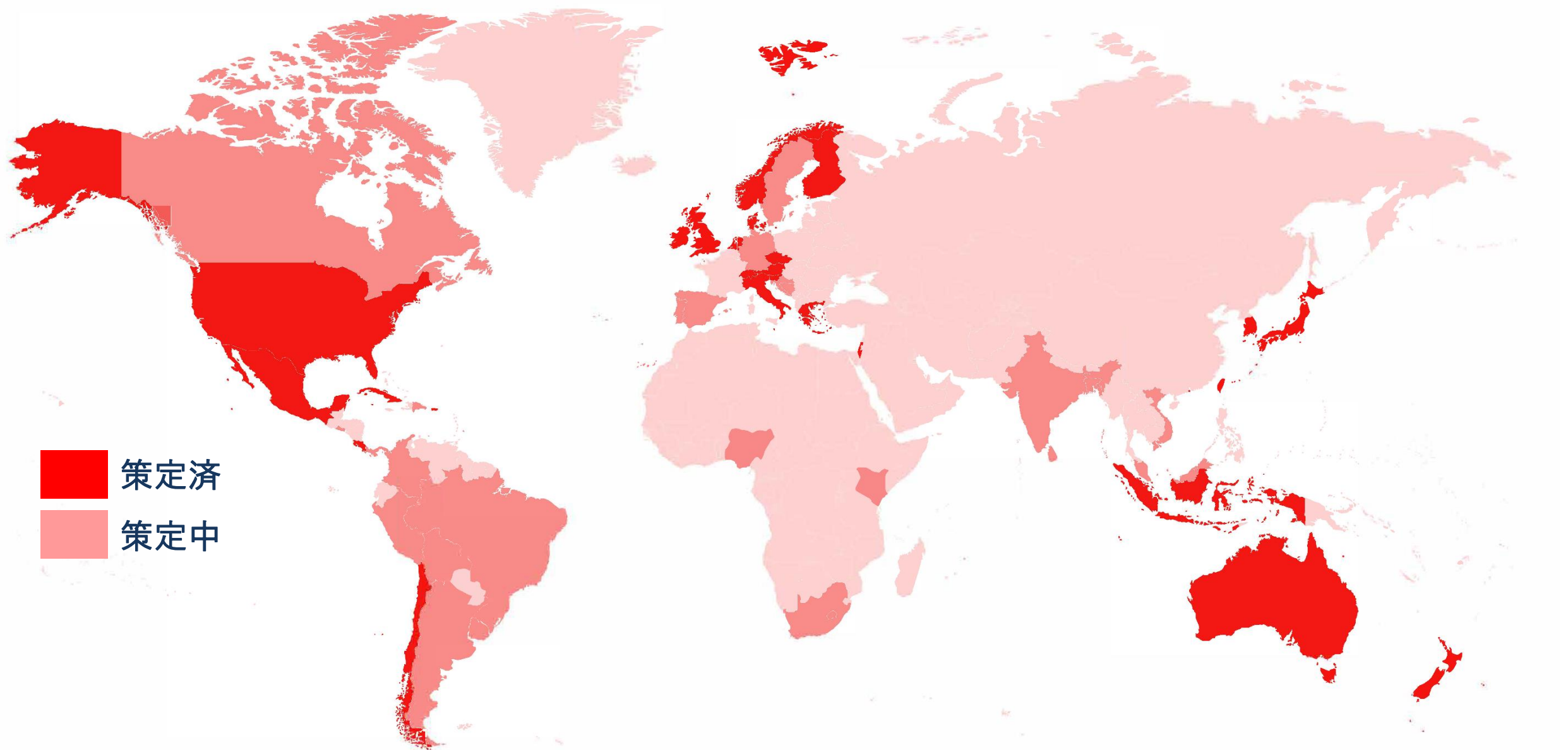
○海外でも多くの国において認知症は重要な社会課題と捉えられており、国家戦略の策定など国を挙げて取組を推進。  
○我が国においても、政府全体で認知症施策を強力に推進していくため、全省庁一丸となつての取組が必要。

日本	イギリス	アメリカ	フランス	オーストラリア
認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン) ～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～	国家認知症戦略	国家アルツハイマー計画 画法に基づく計画	神経変性疾患に関する 国家計画	認知症に関する国家構 想
2012年に厚生労働省が「認知症施策推進5か年計画(オレンジプラン)」を策定。 2015年に関係12省庁が共同して戦略を策定。	2009年に国家認知症戦略を5か年計画として発表。 2015年に新たな戦略(～2020年)を発表。	2011年に国家アルツハイマー計画画法が署名され、 2012年に同法に基づく計画を発表。	2001年に認知症国家戦略を策定。2014年からは神経変性疾患全般に関する新たな戦略として策定。	2005年に認知症に関する国家構想を策定。現在は2015年から2019年までの計画期間中。
主な項目				
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進</li><li>・ 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供</li><li>・ 若年性認知症施策の強化</li><li>・ 認知症の人の介護者への支援</li><li>・ 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進</li><li>・ 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進</li><li>・ 認知症の人やその家族の視点の重視</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 世界的なリーダーとしての役割の継続</li><li>・ リスクの低減(予防)</li><li>・ 健康とケア</li><li>・ 認知症の啓発と社会的アクション(認知症フレンズと認知症にやさしい地域)</li><li>・ 研究</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2025年までにアルツハイマー病を予防し効果的に治療</li><li>・ ケアの質と効率性を向上</li><li>・ アルツハイマー病の人とその家族への支援の拡大</li><li>・ 社会の認識と関与を拡大</li><li>・ データに関する取組を改善し、進捗状況を確認</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 診断の質の向上等</li><li>・ 包括的で個別化されたケアプラン等</li><li>・ 病期を通じたケアの質の向上</li><li>・ 専門家の質の向上</li><li>・ 社会認識や包摂等</li><li>・ 孤立防止、社会の連帯等</li><li>・ 家族等の介護者支援</li><li>・ 経済的影響の軽減と若年患者の就労支援</li><li>・ 人権・倫理</li><li>・ 研究への支援とコーディネーション</li><li>・ 予防や進行の緩徐化のための疾患の理解</li><li>・ プラン実行におけるガバナンスの確保等</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 啓発の促進とリスクの低減(予防)</li><li>・ 適時の診断</li><li>・ 診断直後のケアや支援へのアクセス</li><li>・ その後のケアや支援へのアクセス</li><li>・ 入院中や退院後のケアや支援へのアクセス</li><li>・ 終末期・緩和ケアへのアクセス</li><li>・ 研究の支援・促進</li></ul>

上記のほか、韓国、インドネシア等アジア各国でも国家戦略の策定などの取組が進められている。 (厚生労働省調べ)

# 参考)各国の認知症施策

## 認知症対策国家戦略の策定状況(2018)



### 国家戦略を有する国

オーストラリア	チェコ	イスラエル	マルタ	プエルトリコ	英国
オーストリア	デンマーク	イタリア	メキシコ	韓国	米国
チリ	フィンランド	日本	オランダ	スロヴェニア	
コスタリカ	ギリシャ	ルクセンブルク	ニュージーランド	スイス	
キューバ	インドネシア	マカオ	ノルウェイ	チャイニーズタイペイ	

### 国家戦略を策定中の国

アルゼンチン	ボネール	クロアチア	インド	パナマ	スリランカ
バングラデシュ	ボスニア・ヘルツェゴビナ		ドミニカ	レソト	ペルー
スウェーデン	バレーダス	ブルネイ	エルサルバドル	マレーシア	ポルトガル
ベトナム	ブラジル	カナダ	ドイツ	モーリシャス	南アフリカ
ウルグアイ	ボリビア	コロンビア	ケニア	ナイジェリア	スペイン

# AMEDにおける認知症の克服に向けた取組

○平成26年に閣議決定した「健康・医療戦略」等に基づき、日本医療研究開発機構(AMED)において、各省の研究開発関連予算を集約し、基礎から実用化までの一貫した研究開発及びその環境整備、助成等を実施。

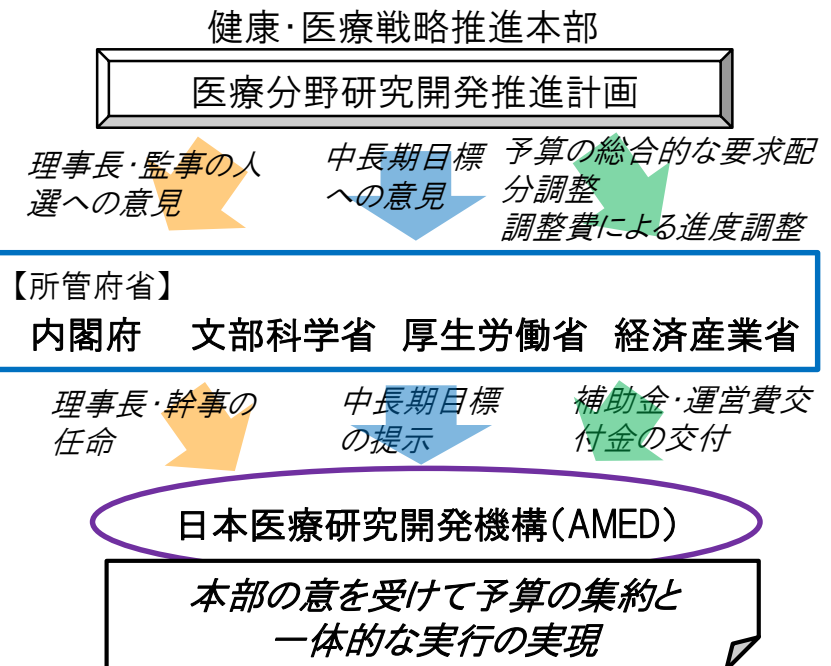
○認知症に関しては、病態解明、診断や治療効果の指標となるバイオマーカーの探索、治療薬候補化合物の探索、認知症の予防に関する研究など、様々な病態ステージを視野に研究開発を推進。

＜2020年までの達成目標＞

- ・日本発の認知症の疾患修飾薬候補※の治験を開始
- ・認知症の診断・治療効果の指標となるバイオマーカーを確立

※疾患修飾薬: 疾患の根本(原因)に介入し、その進行を止めたり遅らせたりする治療薬のこと。

## 【AMEDの位置づけ】



## 基礎

## 実用

### 脳とこころの健康大国実現プロジェクト(精神・神経疾患を対象とする省庁連携プロジェクト)

「脳科学研究戦略推進プログラム」(文)

精神・神経疾患の病態解明と革新的治療法のシーズ探索

「革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト」(文)

「戦略的国際脳科学研究推進プログラム」(文)

高次脳機能を担う神経回路の研究、脳画像解析等による精神・神経疾患の病態解明

「認知症研究開発事業」(厚)

予防法、診断法、治療法、リハビリモデル、介護モデル等の開発  
バイオマーカー等の開発

「臨床ゲノム情報統合データベース事業」(厚)

大規模遺伝子解析

「認知症対策官民イノベーション実証基盤整備事業」(経)

超早期のリスク低減・進行抑制から発症後の自立支援・社会受容に向けた実証研究

## その他の事業

「未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業」(経)、医療機器開発推進研究事業(厚)等  
診断、治療、ケアのための技術開発、機器開発等